

ブラジルから、 こんにちは！



ブラジル ツパン市 日系社会青年ボランティアより
日本のみなさまへのおたより 1号

みなさま、Bom dia!! (ぼんじーあ)

JICA日系社会青年ボランティア 日系日本語教師として、平成24年7月よりブラジルに派遣されています松原有希と申します。

あっという間の日々が過ぎ去り、早いもので8か月となりました。今は、新鮮な驚きで一日があっという間に過ぎてしまう日々から、少しずつ日常生活のリズムができてつつある日々へ移行している時期となり、ようやくおたより第1号づくりとなりました。この紙面を通じて、活動の様子やブラジルについてお伝えできればと思います。



わたしの住んでいる街

サンパウロ州の内陸部にあるツパン市という人口7万人の小さな街で生活しています。サンパウロまでは、長距離バスで7時間30分かかります。ツパン市の気候は、**とにかく暑い!!**です。冬でも30度は軽く超えます。要するに1年を通じて、気候は変わりません。

そのかわり、雨が一度降ると全力で大雨が降ります。空気が冷え込み、20度以下になることもあります。

「ブラジルの季節は一年単位ではなく、**一日の中に四季がある**」といわれるのも納得です。



わたしの活動

配属先：ツパン文化体育協会・ツパン日本語学校

活動日：毎週月～金曜日 授業に合わせて随時

午前：8～10時 週3日の幼稚園の授業と週2日の年少者向け授業。

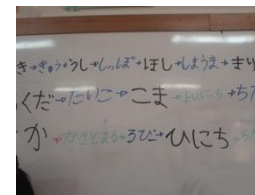
午後：13～16時30分 週5日 7～18歳までの児童対象・
2コマの学習指導補助・巡回

夜：20～21時30分 週2日成人向けの授業担当

土日は休みですが、要請に応じて、近隣の日系社会に「よさこい踊り指導」業務が入ったり、休日に日系社会のイベントも数多くあるため、さまざまなイベントに顔を出すことも務めだと思っています。日本語が話せるということで、カラオケ大会の司会などもしたことがあります。わたしの仕事は日本語を教えることだけではなく、日本文化や遊びの紹介も任務の一つです。

ブラジルの日系社会と日本語

わたしはJICA日系社会青年ボランティア日系日本語教師として、派遣されています。「日系」ということは、ブラジルにある日系社会で主に活動しています。日本からブラジルに多くの日本人が移り住んだ歴史があることは、みなさんご存じかと思います。移民船第1号「笠戸丸」の出航は1908年まで歴史はさかのぼります。未知なる大国で、いわゆる「出稼ぎ」をして、日本に大金を持ち帰る夢を抱いて日本全国から移住した日本人たち。しかし、想像もしない過酷な労働条件や自然災害・そして太平洋戦争の開戦など様々な事情から、多くの人々にとって、日本に帰ることが困難になってしまいます。そして、多くの日本人たちは「移住から定住」



を決意し、日系人子弟が誕生していくわけです。もちろん、移民当初からブラジルで定住をする決意をして渡ってきた人もいますでしょう。時は流れ、2008年の移民100周年を経て、今日系社会では3世・4世の世代となっています。1990年から日本でも「デカセギ」受け入れが始まり、日本で数年働いた経験を持つ人も少なくありません。日系人として日本語を学びたい。日系人として、日本に住んでみたい・働きたい・留学したいという児童も多いです。わたしの任務は、「外国語」としての日本語ではなく、「**継承語**」としての日本語を学ぶサポートをすることです。しかし、日本語を学んでも使う場所がないのが現状です。家庭内で日本語を使う機会も少なくなっています。どのように学習意欲を育てていくかが課題になるでしょう。また、昨今の日本のアニメブーム等から日本語を学びたい非日系人も増えています。このように、日系人を対象にすることにこだわらず、いろいろな対象に学習の機会の門戸を広げることも必要になるでしょう。少しずつ、ブラジルでの日本語教育は変換期を迎えているのかもしれない。

ブラジルといえば!?

みなさん、ブラジルと聞いて、何を想像されますか？
今回は、この2つについてお話しします。



「コーヒー」 ブラジルのコーヒーは甘いです!!

なぜって、砂糖がたっぷり入っているから。そして、量は食後にほんのちょっぴり飲むだけ。日本人は、砂糖なしのフラックコーヒーが好きですよ。わたしも、フラック派です。ですので、店では「センアスーカル(砂糖なし)」と言います。サンパウロなどの都市圏へ行くと、スターバックスコーヒーがあります。ちなみにブラジルでも「抹茶フラペチーノ」は、あります!

「サンバ」

わたしもブラジルに派遣と聞いて、即座に「サンバ!?!」と思いました。「リオのカーニバル」はあまりに有名だと思いますが、規模の大小はあれ、実はどの町でもカーニバルは行われているんです!!そして、**カーニバル休暇**というものがあります。今年は、2月9日から12日までが休暇だったので、まずサンパウロのカーニバルに出場し、そのあとはブラジル3大カーニバルの一つ、レシフェ・オリンダのカーニバルに行ってきました。どう見ても衣装に着られている私です。2000人ぐらいのチームのアジアフロートの一員として、大観衆の中1時間弱、歌いながら踊ってきました!!



サンパウロが「見た目に凝った観衆向けのカーニバル」だとするなら、レシフェ・オリンダのカーニバルは「参加型・街中カーニバル」といったところでしょうか。ぎゅぎゅぎゅの人ごみの中、サンバの楽隊が通り、お気に入りのチームに人々がソロソロとついていきます。「フレボ」というダンス形態で、カラフルな小傘をくるくる回しながら踊ります。楽器隊だけのチームもカッコいい!!しかし、やはり本家のリオのカーニバルは一度見てみたいものですね。



毎日を大きなけが・病気・事故なく過ごすことは、周りの皆さんに助けられてのことだと思っています。日々、感謝の気持ちを忘れずに心身ともに健康的に過ごしていきたいと思っています。 2013. 3
日系社会青年ボランティア平成24年度派遣 ブラジル 松原有希